

令和 6 年度 学校関係者評価委員会報告書

令和 7 年 2 月 2 0 日

学校法人 Y I C 学院
Y I C 看護福祉専門学校

I 令和6年度学校関係者評価委員会報告

1 学校法人 YIC 学院 YIC 看護福祉専門学校 学校関係者評価委員会概要

平成 19 年の学校教育法の改正により、現在の専修学校の質保証・向上の取組は、自己点検・評価の実施と評価結果の公表が義務化され、学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化されている。

学校関係者評価委員会は、Y I C 看護福祉専門学校のより実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、学校の自己点検・評価結果を評価することを目的とした委員会である。

2 学校関係者評価委員

	所属・役職等	氏名
委員長	誠英高等学校教諭（元教頭）	田邊 元久
副委員長	山口県看護協会 会長	西生 敏代
委員	山口県介護福祉士会 会長	安田 国彰
	医療法人聖比留会 セントヒル病院 看護部長	西村 淑乃
	社会福祉法人ひとつの会 理事長	内田 芳明
	Y I C 看護福祉専門学校 看護学科学生 of 家族	古谷真由美
	Y I C 看護福祉専門学校 介護福祉学科学生 of 家族	山根由紀子

3 学校関係者評価委員会 開催内容

(1) 第1回委員会

①日時：令和6年10月29日（火）14:00～15:15

②場所：Y I C 看護福祉専門学校 新館 201 号室

③出席：委員7名（欠席者なし）

教職員7名 乾校長、野崎副校長、有本副校長、三井事務長

東看護学科学科長、山本介護福祉学科学科長 看護学科教員（書記）

④会議概要

- ・令和6年度学校関係者評価委員自己紹介
- ・令和6年度重点項目への取り組み状況（中間報告）
- ・入学生入学動機アンケート結果報告
- ・意見交換

(2) 第2回委員会

①日時：令和7年2月20日

- ②場所：Y I C看護福祉専門学校 カンファレンスルーム
- ③出席：委員6名 欠席者：山根委員（介護福祉学科学生の家族）
教職員7名 乾校長、野崎副校長、有本副校長、三井事務長
東看護学科学科長、山本介護福祉学科学科長
社会福祉士通信課程教員（書記）

④会議概要

- ・令和6年度学校関係者評価委員会報告
- ・令和6年度学校自己点検・評価結果報告
- ・令和7年度重点項目（案）
- ・学校自己点検・評価に対する妥当性や改善案についての意見・提案
- ・令和6年度在校生アンケート結果報告

Ⅱ 令和6年度重点項目への取組

1 学生募集

（1）アドミッションポリシーに基づく学生募集活動

① OC、ガイダンス等の対応マニュアルを活かした学生募集

<共通>

- ・OCの学科説明は、学科の強みの見せ方・伝え方等プレゼン方法の改善
- ・12月以降のOCは高校1・2年生に焦点を当てた内容で実施
- ・医療系（看護、介護、理学療法、作業療法、医療事務）OCの開催

<看護学科>

- ・高校の看護体験、職業紹介のガイダンス・授業を実施、大学と専門学校の教育や経費の特徴を説明

<その他>

- ・併願制度の実施
- ・令和7年度入学生対象の特待生制度導入
- ・個別クロージングの強化

② SNSを活用した募集活動の強化

- ・週に1回以上はInstagram、12月～3月Instagram LIVEの配信
令和6年4月フォロワー787人 → 令和7年1月末1142人
- ・LINEを活用したオープンキャンパス・DMでの登録案内

③ 重点校に対しての募集活動の継続、強化

- ・年間計画に基づいた高校訪問
(3月卒業生就職報告・6月新入生近況報告・8月学生による母校訪問)
- ・社会人入学生の募集広告をHPやフリーペーパー、市報に掲載

<看護学科>

◎1年生の出身校へ

- ・看護継承式を終えて（目指す看護師像）

<介護福祉学科>

◎福祉科のある高校へのアプローチ

- ・教諭、保護者、生徒への福祉の現状と学科説明

◎留学生募集

- ・日本語学校への訪問（京都・福岡・広島・山口）
- ・留学生への学校説明・本校での授業見学
- ・海外からの直入学希望者への対応

◎訓練生募集

- ・ハローワーク各地、Y I C 独自での説明会の実施
- ・ポスター、チラシの設置

④ 職能団体と連携した募集活動

- ・卒業生の就職先へ卒業生の OC 参加を依頼し、3施設4回実施
- ・山口県看護協会「看護の魅力発信」実行委員として小学生から高校生まで幅広い対象への広報活動（今年度は実動なし）
- ・山口県福祉人材センターとの連携
求職者に職業訓練の案内、入門的研修の実施

2 教育内容の充実

（1）ICT を活用した教授・学習方法の工夫

<共通>

- ・感染症発生状況や天災、交通機関の影響等にもオンライン授業に切り替えて対応
- ・問題配信、授業評価、アンケート、学生・家族宛文書の配信

<看護学科>

- ・電子テキスト（国試問題集・看護技術動画を含む）を用いた授業
- ・グループワークに Microsoft アプリを活用した学習内容の共有化
- ・電子黒板を活用した学習（授業、演習、学内実習）
- ・Medi EYE（学習用電子カルテ）を活用した実習準備教育

（2）国家試験対策の計画的な実施・強化 【p 7 (3)－④、p 9 (4)－③参照】

・月1回の国試対策会議

参加者：管理職、学科長、国試対策委員、学年担当

内容：学科・学年ごとの学習状況、模試結果等の報告、目標値達成状況の確認、課題及び具体的な取組方法の検討、チューターによる

学習支援内容の共有

- (3) ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに沿ったカリキュラム編成
⇒カリキュラムの実施と評価

<看護学科>

- ・コマシラバスを年度末までに担当科目分を作成し共有フォルダへ保存
- ・新任教員の授業観察及びリフレクション実施（前期・後期各1回）
- ・教員相互の授業見学への積極的参加
- ・領域別実習ルーブリック評価表作成と導入

<介護福祉学科>

- ・新任教員の授業案作成支援、授業観察及びリフレクション（前期複数回）

3 学生支援体制の充実

- (1) 学年担当による活気溢れる運営
- (2) 学生・企業のニーズに応じた計画的・効果的なキャリアサポート
- ・キャリア支援室と連携し、年間計画に応じたキャリアサポートの実施
 - ・実習施設及び卒業生による就職説明会の実施
- (3) 学力の低い学生及び留学生への学習支援の充実
- ・単位修得試験・国家試験模擬試験等で目標値に到達していない学生（のびしろ対象者）の学習支援（卒業生による学習支援）
 - ・留学生の日本語勉強会（日本語検定試験 N2 取得、専門用語の理解）

4 積極的な社会貢献活動

- (1) 高校・企業との連携・協働による看護・介護の魅力発信
- ・高校との教育連携（専門職の紹介、模擬授業、設備の利用）
 - ・介護現場に就職した卒業生と共に母校の福祉コースで講義
- (2) 地域住民との交流・ボランティア活動への参加
- ・介護の日イベント（児童養護施設に訪問し、山口県介護福祉士会と共に啓蒙活動を実施）
 - ・誠英高校、勝間小学校、建築士会等との連携による福祉体験
 - ・地域自治会に協賛した地域ふれあい祭りに参加（血圧測定・レクリエーション）
 - ・OC 開催日に学校周辺住民（町内会）との交流「わが町の YIC 保健室」開催（3 月予定）

Ⅲ 令和6年度学校自己点検・評価

1 学校自己点検・評価の実施

(1) 評価方法

①評価内容：全国専門学校教育研究会自己点検・評価表（2023 改訂版）

モデルを使用（一部改変）・・・資料 I -2

11 個の大項目、43 個の中項目、166 個の小項目

評価項目のカテゴリー A・B・C

A：基本的事項（専修学校として必須）

A + B：職業実践専門課程の認定校対象

第三者評価に取り組む場合

A + B + C：更なる質の向上を目指す

②評価基準：4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

(2) 評価者：教職員 19 名

(3) 評価時期：令和6年11月14日～令和6年12月13日

2 評価結果

(1) 評価項目の評価結果・・・資料 I -2 で囲んだ 3.5 未満の小項目 3 個

(2) 大項目の評価結果

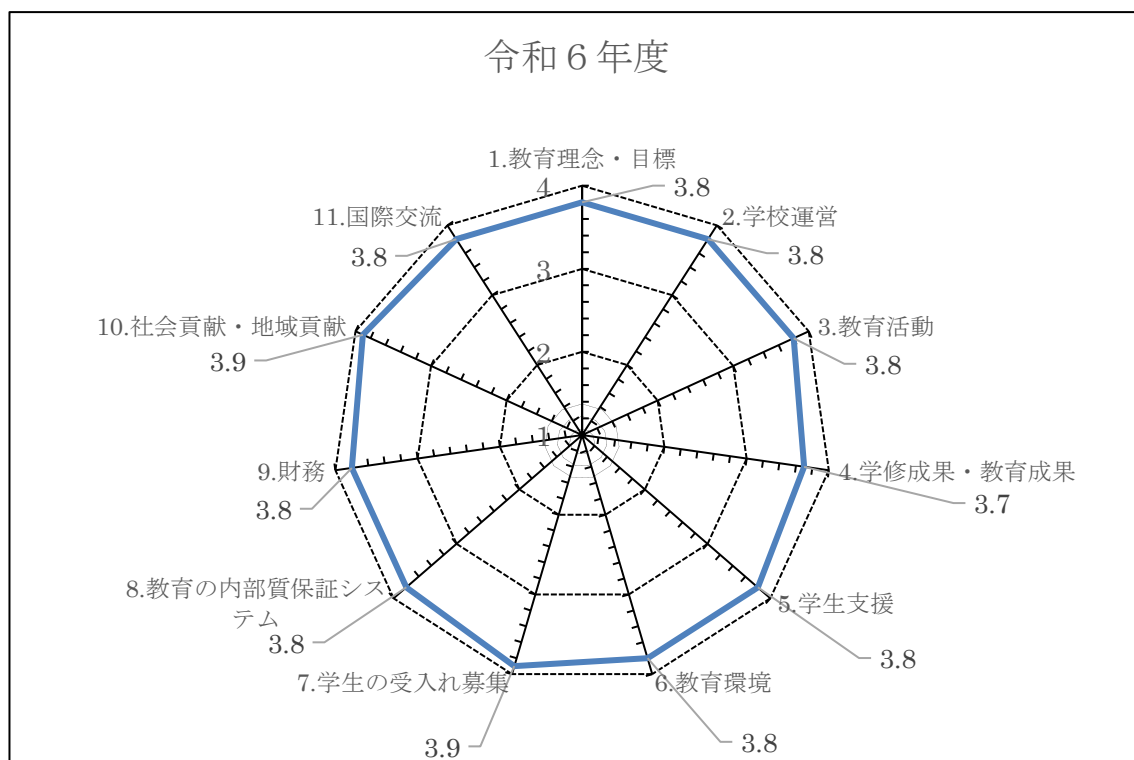


図1 令和6年度学校自己点検・評価結果（大項目別）

3 大項目の評価の根拠、課題と対策

(1) 教育理念・目標

<評価の根拠>

① 教育理念・目的・目標・ポリシーの明文化

- ・職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等を盛り込んでいる。
- ・学校案内（パンフレット）、ホームページ、学生便覧へ掲載している。
- ・各教室に校訓を掲示、学生やOC等の来校者へ周知を図っている。保証人への周知は、入学式参加者へのオリエンテーションで伝えているが、参加されていない方への周知・徹底は図っていない。
- ・経営計画書（教職員手帳）にY I C学院の教育理念を掲載している。

② 教育の特色

- ・3P（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）、職業教育の特色を明記したカリキュラムマップの活用
- ・学生便覧に各学科・学年の教育計画を明示し、入学後のオリエンテーションで説明している。

(2) 学校運営

<評価の根拠>

① 運営方針・事業計画・中期計画・運営組織

- ・Y I Cグループの経営方針・経営目標、教育方針・教育目標に基づき基本方針を定め、経営計画書（教職員手帳）に記載されている行動基準等を朝礼で確認・チェックしている。
- ・運営方針に沿った事業計画・中期計画を策定し、組織図や職務分掌に基づく毎月の学内会議（アメーバ会議、運営会議、職員会議）、グループ校の管理職会議（経営会議、校長会議、副校長会議、事務長会議）で協議・報告を行い、情報共有している。

② 教職員の評価・育成

- ・教職員の職務目標・実施計画・取組状況に基づき、計画的に年3～4回上長による面接を実施し、年2回実績評価を行っている。
- ・教職員の能力開発・資質向上のために、年2回計6日間YICグループが企画・運営するFD・SD研修（対象指定・希望）に参加している。
- ・教員が所属する職能団体や協議会等の組織が企画・運営する研修会や学会に参加して専門職の資質向上に努めている。
- ・教職員個々の職務経験や役割に基づき、キャリアアップや資質向上を目指し、公務による研修参加を実施している。
- ・教職員個々の職務目標に基づき、自発的に研修に参加している者もいる。

③ 情報システム

- ・管理本部経営戦略課を中心に、各校の DX 委員からなる DX 戦略 WG 委員会を月 1 回開催している。安全で効率的な情報管理を目指し、教務基幹システムの課題検討を実施している。

<課題と対策>

② 教職員の育成

課題：教職員の能力開発や資質向上について、特に専門性の高い実務に関する研修や教員の指導力の修得・向上は、学科や個人の課題解決として YIC グループ内研修のみでは十分とはいえず、個々の自助努力に頼る部分も多い。

対策：組織化の中で計画された研修の成果は、組織全体で共有され、組織力向上に繋げていく。

(3) 教育活動

<評価の根拠>

① 目標の設定

- ・教育理念・教育目的および育成人材像に沿って、学科・学年別の到達目標を学生便覧に明示し、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとの関連を学年当初に説明するとともにホームページに掲載している。

② 教育方法・評価

- ・教育理念・到達目標に沿ってカリキュラム編成を行っている。
- ・カリキュラム編成は、学科内で協議後、運営会議、教育課程編成委員会を経て学内決裁を得ている。
- ・シラバスはホームページで公開するとともに入学時に配布し、各科目の初回授業時に説明、国家試験出題基準、学生の授業評価を基に毎年見直しを行い、授業内容の充実を図っている。
- ・コマシラバス（グループ校共通様式）の作成を教員全員の実績評価につながる職務目標に掲げ取り組んでいる。学内教員の担当科目は、年度内作成を目標としているが、現在、作成途中の科目も多く、評価結果は 3.3 とすべての評価項目の中でも低い点数であった。
- ・学生の授業評価結果から、授業観察が必要と判断した場合は、授業見学を計画・実施、リフレクションを行っている。
- ・関連分野における実践的な職業教育（実習）は体系的に位置づけられ、目標や内容、評価方法は、学内協議を経て事前の実習会議で説明・共通理解を図っている。
- ・看護協会や介護福祉士会、福祉人材センター、実習施設等と連携し、学生への専門職教育に役立てている。

③ 成績評価・単位認定等

- ・学生便覧に示す単位修得に関する規程に基づき評価し、進級・卒業認定に関する規程に基づき、判定会議にて認定している。

④ 資格・免許取得の指導体制

- ・資格取得に向けた指導体制は、入学時からカリキュラム内に体系的に位置づけている。
- ・国試対策会議を月1回開催し、目標達成状況の確認、課題・対策の協議を行っている。

⑤ キャリア教育

- ・カリキュラム内に就職実務教育を体系的に組み込み、社会的・職業的に必要な基礎的能力の育成に取り組んでいる。
- ・入学が確定した入学予定者から順次入学前教育を実施（10月～月1回）している。（基礎学力確認、基礎看護技術体験）
- ・高校との教育連携において、キャリア教育・職業教育を実施している。
教育連携校：4校

<課題と対策>

① 教育方法・評価

課題：カリキュラム改正に伴う教育課程の評価・シラバスの見直し・修正を行っているが、コマシラバスは年度内を目安に作成中である。

対策：次年度は、作成したコマシラバスの見直し・修正を職務目標に掲げ、実績評価に繋げていく。

課題：教育力向上室職員及び学内教員による、新任からベテラン教員に対する定期的な授業視察5回に加え、新任教員の授業案作成、授業見学、リフレクションを前期・後期各1回実施しているが、非常勤講師の授業見学や教員間相互の授業見学は主体的に実施できておらず、教育の質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察はできていない。

対策：コマシラバスに基づき、主体的な教員相互の授業観察・リフレクションの年間計画を作成し、教員個々が主体的に参加する風土づくりをする。

（4）学修成果・教育成果

<評価の根拠>

① 学修成果

- ・単位認定試験結果については、学習者の習熟状況をアセスメントし、単位修得に向けた動機付け・学習支援を行っている。

② 就職内定率（2月1日現在）

- ・就職希望者の就職内定率目標 100%

実績は看護学科求職者 41 名中 38 名内定、内定率 92.6% (うち県外 27%)、介護福祉学科求職者 (日本人) 19 名中 13 名内定 内定率 68.4% (すべて県内) ※留学生 5 名は支援先での就職予定

- ・就職活動記録 (インターンシップや見学会、説明会への参加報告、就職試験報告、内定報告を受けデータ入力) として保存し、教員の企業理解・下級生の就職活動に活用している。

③ 資格・免許の取得率

- ・国家試験合格率 100%、最低でも全国平均以上を目標として、各学科の国試対策年間計画に基づき実施状況をアセスメントし、毎月国家試験対策会議で見直しを行っている。

表 1 令和 5 年度の結果

資格	受験者		合格者		合格率	
	本校	全国	本校	全国	本校	全国
看護師	49 名	63,301 名	40 名	55,557 名	81.6%	87.8%
介護福祉士	21 名	74,595 名	20 名	61,747 名	95.2%	82.8%

看護学科は、平成 27 年度の合格率 100%以降、ほぼ全国平均並を推移している。介護福祉学科の合格率は、国家試験受験開始以来、全国平均を上回っている。

- ・レクリエーション介護士 2 級取得
- ・①～③のHP公表データ：就職率と就職先、国家試験合格率

④ 社会的評価

- ・卒業後 3～4 カ月頃、環境の変化や社会人としての責任から大きなストレスを抱える時期に卒業生及び職場の上司アンケートを実施し、就業状況・基礎的な知識や技術習得状況の調査を実施している。また、8 月にホームカミングデイを開催し、卒業生同士の情報交換、教員への相談の場を設けている。
- ・卒業生の就業先 (実習病院) 訪問や募集活動で来校された職員との情報交換から卒業生の就業状況や動向を把握している。

<課題と対策>

① 学修成果

【看護学科】

課題：育成人材像・実習目標に沿った評価基準が教員の主観で多少のずれが生じることがある。

対策：学習者主体の学習評価、教員の評価の共通認識を目指したルーブリック評価表の作成と導入

③ 資格・免許の取得率

課題：国家試験合格率が全国平均を下回らないための対策

対策：卒業生の国家試験の可否、在学時の成績推移等のデータを基に、1年次からの国試対策を見直し、年間計画を立案、目標値を定め、学習・指導方法を共有する。

④ 社会的評価

課題：卒業生の動向把握はアンケート調査・ホームカミングデイの開催と主に卒業後1年間に留まっており、その後は就業先からの限られた情報のみとなっている。

対策：同窓会組織の活用により、一定期間の動向把握は可能となるが、得るべき情報とその活用方法も今後検討が必要である。

(5) 学生支援

<評価の根拠>

① 修学支援

- ・単位修得試験の再試験・再々試験対象者、国家試験模擬試験の目標点未達の者については、学年担当やチューターの面接、必要に応じて学習支援を実施し、毎月の学科及び運営会議で報告している。

② 進路・就職に関する支援体制

- ・年間計画に基づきキャリアサポート室・総合支援室と連携した進学・就職支援（病院の選び方、願書・小論文の書き方、模擬面接を集団・個別で実施）
- ・実習病院による就職説明会・卒業生の体験談

③ 学生相談

- ・学生相談に関しては、学年担当をはじめ誰にでも相談できる体制を整えている。学生便覧には、相談窓口として学外（総合支援室）も設置していることを明記しており、年間に数件の相談がある。

④ 学生生活

- ・入学に関する問い合わせや願書の受付等窓口業務は、入学試験委員である副校長・事務長が担っている。
- ・公的奨学金制度の利用等について、学生・保証人に案内・情報提供している。
- ・会場・学校ガイダンス、学校案内パンフレット、募集要項、HP等で学校の情報提供を行っている。特に留学生に関しては、住環境やアルバイト先等安心・安全な生活環境への支援を行っている。

⑤ 休・退学希望者への対応（2月1日現在）

表2 休・退学者状況

	看1年	看2年	看3年	看護計	介1年	介2年	介護計	総数
年初	24	42	43	109	21	24	45	154
現在	23	41	42	106	20	24	44	150
休学(再)	1	3	1	5	0	0	0	5
退学	1	1	1	3	1	0	1	4

・休・退学理由

休学：身体（精神）的理由、進路検討

退学：進路変更

・休・退学低減のための取組

定期面談に加え、欠席状況や授業態度、単位修得試験結果から学習面・生活面の現状把握のための面談を実施し、必要時家族へ連絡

休学者は定期的な連絡、必要時面談を行い、復学に向けての支援を行う。

⑥ 保証人（家族）

・「父母の会」として、9月～10月に個別面談（希望者・学校からの依頼）を実施し、学生情報の共有・学校への要望聴取を行っている。

・学生個々の状況（単位未修得、無断欠席等）に応じて保証人に連絡し、必要時面談を行っている。

⑦ 卒業生・社会人支援

・ホームcomingデーとして、卒業生（卒後4か月）の近況報告、情報交換、相談を行い、問題解決、離職防止に繋がる機会を設けている。

・卒業生の相談に随時対応（就業上の悩み、国試対策、進路相談）

・離職者の再就職相談

<課題と対策>

① 休・退学の低減

課題：休・退学の低減に関する取組の継続

対策：学生情報の把握・共有、家族を含めた支援計画・実施、記録の保存

(6) 教育環境

<評価の根拠>

① 施設・設備等

・教育に必要な教材・備品は、定期的に管理・チェックを行い、優先順位を考え購入計画を立案している。

・図書室・図書コーナーがあり、教員及び学生の図書委員により、蔵書・雑誌の整理、貸出・返却手続き等の管理を行っている。

- ・学内の整理・整頓・清掃に関しては、担当箇所を決め、原則毎日実施し、クリーン日には確認作業を行っている。

② 学外実習

- ・学校外の実習施設の教育体制については、会議等で事前打ち合わせや実習結果報告を実施し、学生の実習環境・指導体制の整備を行っている。
- ・学校外の実習に先立って、個人情報管理規程、実習誓約等、職業倫理に関するオリエンテーションを実施している。

③ 防災・安全管理

- ・防災・防火、感染症発生等に関する危機管理マニュアルを備え、防災規程に則り年1回の避難訓練を実施している。

(7) 学生の受入れ募集

<評価の根拠>

① 学生募集活動

- ・社会人学生、留学生（介護）等、多様な学生の受入れ方針についても、募集要項・HPに明示するとともに、学校説明会、個別説明会等で個々の質問に丁寧に対応している。
- ・入学予定者の入学前教育（学習指導・支援等）を10月から順次実施しており、（5回～1回）看護・介護専門職を目指す者が、入学までに必要な基礎的な学習を行うとともに、仲間づくりの機会を設けている。

② 入学選考

- ・入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）、合否判定基準に基づき、入学者選抜を行っている。
- ・令和6年度入学生選抜から総合型選抜を実施
- ・入学試験実施規程に基づき入学選抜実施要項を作成し、教職員に周知している。

<課題と対策>

① 学生募集活動・入学選考

課題：導入から2回目の総合型選抜（旧 A0 入試）で合格した入学者の学習面、態度面の情報から課題の明確化

対策：総合型選抜の選考内容・方法の検討し、入学選抜実施要項の修正を行う。入学選抜実施要項（特に変更部分）は教職員への周知を図る。

(8) 教育の内部質保証システム

<評価の根拠>

① 関係法令、設置基準等の遵守

- ・法令、専修学校設置基準に基づき学内の諸規程を整備し、適正な運用に努めている。

② 個人情報保護

- ・個人情報保護規程に基づき、学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施している。

③ 学校評価

- ・学校機能評価規程に基づき内部監査委員を設置し、組織的に学校自己点検・評価を実施している。
- ・相互自己点検・評価委員会メンバーによる本校の学校自己点検・評価体制及び評価項目に沿った運営状況のヒアリングを受け、課題の明確化に努めた。
- ・学校自己点検・評価結果は報告書にまとめ、学内決裁を経て学校関係者評価委員会で報告、改善の取組を行っている。

④ 改革・改善

- ・学校自己点検・評価結果に基づき課題を明確にし、次年度の重点項目を定め改善計画を策定している。

⑤ 教育情報の公開

- ・教育に関する情報については、HPの「情報公開」に掲載している。

<課題と対策>

③学校評価

課題：相互自己点検・評価委員会のヒアリングを受け、学校運営に係る課題が明確となった。

対策：課題解決のために、具体的な改善計画を立案し、早急な改善を図る。

(9) 財務

<評価の根拠>

① 財務基盤、予算・収支計画

- ・年度予算・事業計画については、中期計画書を策定し、理事会の承認を経て公正・適正に執行している。
- ・執行状況は、毎月学内のアメーバ会議、法人全体の経営会議で報告し、管理している。

(10) 社会貢献・地域貢献

<評価の根拠>

① 社会貢献・地域貢献・ボランティア活動

- ・学校の教育資源や施設を活用し、地域・高校との連携した貢献活動を行っている。(高校との教育連携・「わが町のY I C保健室」3月開催予定)
- ・介護の日記念行事で、児童養護施設に訪問し介護体験・交流を実施した。
- ・年間目標に基づき、外部より依頼されたボランティア活動については、窓口の教員から学生に紹介し、活動支援を行っている。

(4月～1月末現在 依頼数14件、参加数9件 ※本校企画のものは除く)

<課題と対策>

① 社会貢献・地域貢献

課題：積極的な医療・福祉に関する情報発信・啓発活動

対策：行政機関・諸団体（山口県厚生課、山口県医療政策課、防府市健康福祉科、介護福祉団体、社会福祉協議会、看護協会、町内会等）と連携を取り合う。

(11) 国際交流

① 留学生の受入れ

- ・介護福祉人材確保のために、日本語学校と連携した留学生の受け入れ体制を整備している。(住居・休日のアルバイト受入れ・生活支援施設とのマッチング)
- ・在学中の日本語支援（日本語検定試験 N2 取得・専門用語の理解を目指して週1回の日本語教育実施）

IV 令和7年度の重点項目—(案)— 承認

1 学生募集

(1) アドミッションポリシーに基づく学生募集活動

- ①OC、ガイダンス等の対応マニュアルを活かした学生募集
- ②SNS を活用した募集活動の強化
- ③重点校に対しての募集活動の継続・強化
- ④職能及び関連団体と連携した募集活動

2 教育内容の充実

(1) ICT を活用した教授・学習方法の工夫

(2) 国家試験対策の計画的な実施・強化

(3) ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに沿ったカリキュラム編成

- ①介護：カリキュラムの実施と評価
- ②看護：カリキュラムの実施と評価

3 学生支援体制の充実

(1) 学年担当による活気溢れる運営

(2) 学生・企業のニーズに応じた計画的・効果的なキャリアサポート

(3) 学力の低い学生及び留学生への学習支援の充実

4 積極的な社会貢献活動

(1) 高校・企業と連携・協働した看護・介護の魅力発信

(2) 地域住民との交流・ボランティア活動への参加